


世界の犬の鳴き声

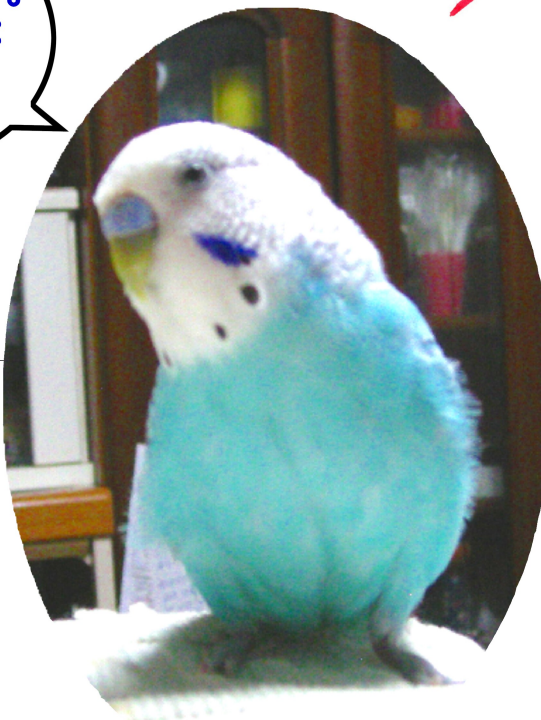
フランス=ウウウ スポイン=ジウジウ
 ドイツ=ハフハフ
 英語=バウバウ
 ロシア=ガウガウ
 中国=ウーウー
 日本=ワンワン
 韓国=モンモン



ペットといっしょ!

愛らしい仕草で心にぬくもりを与えてくれるペットたちと、そのご家族のエピソードをお寄せいただきました。動物たちと寄り添う暮らしを感じ、「ほっ」と温まっていたいただければと思います。

ぼくは「ピースケ」。お母さんとずーっといっしょ!

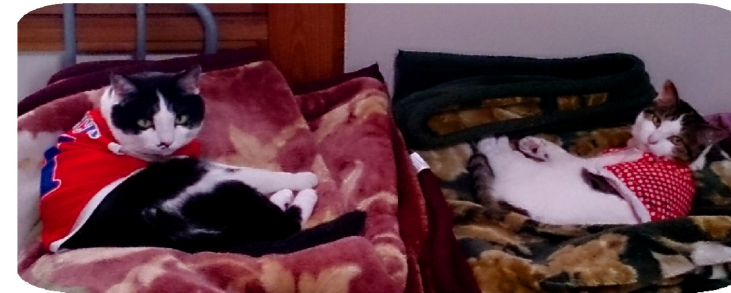


大塚ピースケさん(鶴瀬西)

ピースケが我が家に来て8年になります。家の中では自由に飛び回っており、かけがえのない家族の一員です。
 朝から、「おはようございます。お父さんはお仕事。行ってらっしゃい。気をつけてね。桃太郎は鬼が島、鬼退治……」等、話す言葉は50種類、会話ができて、とても優秀なピースケです。身体の不自由な私を毎日、元氣付けてくれる大切な家族です。
 ピースケと話ができる事が私の生きがいです。



最近ご主人を亡くされたお母さん。ピースケの存在が心の支えだという。



川村コナツさん&ランさん(鶴瀬西)

今我が家では目覚まし時計は不要です。毎朝の時半には必ず2匹の猫が枕元に座り、私たちが起きるまで待っていたり、顔をなでてきます。
 私が目を開いたとたん、「オハニヤウー、オハニヤウー」と猫言葉で朝のごあいさつです。「こはんっ」ときくと2匹とも「コワン、コワン」と餌のある場所に駆けていきます。
 写真左のコナツは12歳(♂)、右のランは2歳(♀)。人間では70歳と24歳くらいで、おじいちゃんとの孫の関係です。子どもはいない私どもにとって、2匹は大切な家族であり、身も心もいやされる存在であり、これからも一緒に過ごしていきたいらで願っております。



岩田ジャックさん(関沢)

12年前、孫が小学4年生の時に犬を飼い始めました。胸が長く、脚の短いミニチュアタックスフントです。

名は「ジャック」。数年間は孫も喜び、遊んだり散歩をしたりしていましたが、中・高校生になると部活動が忙しくなり、学校の帰りも遅くなるにつれ散歩に連れて行く回数も少なくなりました。やむなく、そのころからは私の出番です。それまではあまり犬というものが好きになれなかった私です。いやいやながらも家族の一員と思わざるを得なくなりました。情も移りなかな可愛いのだという気持ちになったものです。

私の姿を見ますと散歩をおねだりします。生き物は最後まで責任を持ち、育てていかなければならないという使命感も生まれ、今ではすっかり大好き状態です。
 どちらが先か分かりませんが、最後まで一緒にいたいと思うようになりました。



本間ベルさん(鶴馬)

ペットと生活すること四十数年を超え、今のペットが6代目になります。
 この子も可愛い我が子ですが、とりわけ4代目は、カミナリ等の音に敏感に反応し、家の中を走り回っていた光景を忘れることが出来ません。共に暮らす中で、大変だと感じたことは、一度たれないことが、辛いと感じます。
 長く生活すること、何気なく掛ける言葉を理解するようになり、一緒に暮らしている喜びを感じます。
 夜は、同じベッドで眠るにつき、翌朝は、毎日のように目覚まし時計のごとく決まって私の顔をペロペロなめて起こします。
 子どもたちが巣立った今の私にとって、至福の時間です。一日でも長くこの家族生活が続くことを、願うばかりです。

星野プータさん(関沢)

わが家の愛犬プータは、いつも可愛く愛らしくどんな時も尻尾を振って迎えてくれます。そんなプータと遊びたいのが、子犬のころは主人も息子も早く帰ってきて世話をしたり芸を教えたり、プータを中心に家族の会話やにぎやかな時間が増えました。
 犬にいやされるのはもちろんですが、プータが家族をつなげ、家族のあり方、大切さを再確認させてくれました。
 もうプータは11歳を過ぎシニア犬になりましたが、いつまでも長生きしてください。ありがとうプータ!



篠田プリンさん(鶴馬)

今から30年ほど前、仕事先の事務所床下から鳴き声が聞こえ、のぞき込んで見ると、そこには、真っ白な生まれたての子猫がいました。
 家に連れ帰り、毎日ミルクを与えているとみるみる元氣になり、それから18年近くも家族として暮らすことが出来ました。
 その後、現在の愛犬と過ごすことになりましたが、魚料理が好きなのは、猫の時も、嗜好があっていたのですが、果たして心配しておりましたが、魚を焼き始めると、家中を駆け回り大喜びで焼き上がるのを待つようになり、食卓と一緒に囲み、おいしそうに食べておられます。
 今では、私たちに過去に暮らした愛猫と愛犬の両方を感じさせてくれる孝行息子です。



塩分が多いからお魚はほんの少しだけもらってるんだよ

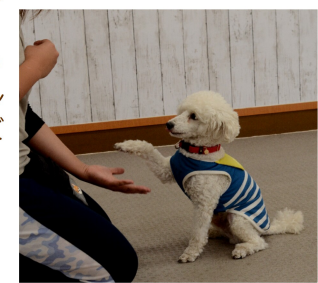
「わんこの学校」

今回の特集を組むにあたり、編集委員の間でもペットについてのさまざまな話題が出ました。やはり「生き物の命を大切に」「まわりに迷惑をかけない」ということが基本だ、という話になりました。死ぬまできちんと面倒をみることは当然として、フンや騒音などで他人に迷惑をかけないことも大切です。

ある人は、「飼い犬の鳴き声がうるさい」と近所の人に言われ、専門のトレーナーさんがいる『学校』で無駄吠えをしないようにしつけてもらったそうです。

専門家の方によれば、犬のしつけの場合は①社会化(人間とのかかわりに慣れさせる)②トレーニング(学習・訓練)が重要だそうです。①は人間との生活や環境に慣れさせること、②は自分の名前や「お座り」などの動作、排せつや食事の場所を覚えさせたり、人間との上下関係を理解させたりするための訓練だとのこと。

動物の種類や性質によっても、必要なケアは違ってくるとおもわれます。その子に合ったお世話やしつけなどをきちんとし、みんなで心地よく過ごしたいものです。



撮影協力および取材先：
 わんこの学校 スマイルわん鶴瀬店